

ところで、漢字といっても、鳥と鳩を比べたとき、鳩という字はすぐ覚えるのですが、鳥はちょっとてこずります。

というのも、鳥という鳥はいないからです。鳩といえば、誰でも頭の中で鮮やかにイメージが描ける具体的な存在です。外で見た鳩と字を結びつければいいわけですから、簡単に覚えられます。しかし、鳥という鳥は当然見たことがありませんから、イメージが思い浮かばないために、むずかしいということになります。

そう考えてみると、最初に学ぶべきものは、ひらがなではなく、しかも鳩とか蟻とか鷲とか鷹とか、具体的にイメージできる漢字がいいのです。

木では柿とか梅。また梅よりは桃とか、とにかく子どもが好きなものだったらず一回で覚えます。一日たって「これ何という字？」と聞いても、ちゃんと読めます。こんなことはかなでは絶対にできません。翌日には必ず読めなくなっています。

その後、今度は抽象された(目で実際に見ることができない)文字、たとえば虫という字とか、鳥という字とか、木という字に移行すればいいのです。